

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	フレデリーさんじょう		公表日 令和8年3月31日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・整備	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	0	4	学校や園の先生方の関わりを生かした支援が中心であるため、現時点では事業所独自の教材を使う場面は多くない。必要に応じて、訪問先の環境に合わせた教材活用を検討している。	訪問内容やこどもの状態に応じて活用できる教材や支援ツールの整理を進める。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	利用状況に応じて必要な職員配置を確保し、安定して支援を行っている。	今後も利用状況に応じた適切な配置を維持していく。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	朝のミーティング等で訪問状況や課題を共有し、支援の振り返りや改善につなげている。	継続的に職員全体で振り返りが行える体制を維持する。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	保護者評価を通して意向や要望の把握に努め、改善に生かす体制を整えている。	評価結果をより具体的な業務改善につなげていく。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	日々のミーティングや随時の相談を通して、職員の意見を共有しやすいようにしている。	より意見を出しやすい仕組みづくりを進める。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	4	現時点では第三者評価は実施していない。	今後、必要に応じて外部評価の活用を検討する。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	法人内研修の機会を設けており、必要な知識や支援技術の向上に努めている。	保育所等訪問支援に特化した外部研修への参加も進めていく。
適切な支援の提供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	4	0	こどもや保護者の思い、訪問先での様子を踏まえてアセスメントを行い、支援計画を作成している。	より客観的で丁寧なアセスメントの継続に努める。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	担当者だけでなく関係する職員間でも情報を共有し、こどもの最善の利益を意識して検討している。	多角的な視点での検討を継続する。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	4	0	訪問先施設の担任や関係者の意向を確認し、計画に反映できるよう努めている。	訪問先との丁寧な情報共有を継続する。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	支援計画の内容を職員間で共有し、支援の方向性がずれないようにしている。	支援内容の確認と振り返りを定期的に行う。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	日々の行動観察を中心に、こどもの状態や変化を丁寧に確認している。	必要に応じて、適切なフォーマルアセスメントの活用も検討する。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	4	0	ガイドラインを踏まえ、支援内容が具体的に計画に反映している。	さらに実践に結びつきやすい表現や内容の具体化を進める。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	支援計画を共有し、一貫した支援につながるよう取り組んでいる。	進捗確認や共有の質をさらに高める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	支援前に打合せを行い、役割や留意点を確認したうえで支援を実施している。	打合せ時間を有効に活用し、要点を明確に共有していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0	支援後に振り返りを行い、気づきや改善点を次回支援につなげている。	振り返り内容の記録をより充実させる。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	4	0	訪問先施設の方針や支援の進め方を尊重しながら、連携を大切にしている。	訪問先との信頼関係をさらに深めていく。
関係機関や保護者との連携	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	4	0	毎回の支援記録を残し、内容を振り返りながら支援改善につなげている。	記録の質を高め、分析や活用をさらに進める。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	保護者や訪問先と定期的に状況確認を行い、必要に応じて計画見直しにつなげている。	モニタリング結果をより迅速に計画へ反映していく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	こどもの状況を把握している職員が会議に参加し、多職種で情報共有を行っている。	会議の中でより具体的な提案や共有ができるようにする。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	関係機関との連携を図り、途切れのない支援になるよう意識している。	連携をより円滑にするための情報共有方法を工夫していく。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	0	移行時には支援内容や配慮事項の共有を行い、スムーズな引継ぎに努めている。	移行支援の流れをより整理し、継続的に活用できる形にする。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	0	法人内研修に加え、必要に応じて外部研修や専門家からの助言も取り入れている。	より専門性を高める機会を広げていく。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	1	参加可能な地域会議にはできる範囲で参加している。	地域の会議や活動への参加機会をさらに広げていく。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	面談や日々のやり取りを通して、こどもの様子や課題を丁寧に共有している。	家庭との連絡手段や共有方法をさらに工夫する。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	現状は情報提供や相談対応が中心であり、家族支援プログラムの実施は今後の課題である。	家族支援プログラムや学びの機会を具体化していく。

保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	契約時等に、運営規程や利用者負担について分かりやすい説明を行っている。	資料や説明方法をさらに見やすく分かりやすくしていく。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4	0	訪問開始前に、事業の目的や支援の進め方について丁寧に説明している。	訪問先向けの説明資料の充実を図る。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点等を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	面談や日々の聞き取りを通して、子どもや家族の思いを確認しながら計画づくりを行っている。	子どもの意思をより丁寧に汲み取る工夫を重ねていく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4	0	保育所等訪問支援計画を示しながら支援内容を説明し、納得を得たうえで同意をいただいている。	計画変更時の再説明や共有をより丁寧にを行う。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	4	0	家庭連携や面談等を通して、保護者の悩みや相談に寄り添いながら対応している。	相談しやすい関係づくりを今後も継続する。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	3	現時点では十分に実施できていないが、今後は保護者同士がつながれる機会づくりを検討している。	小規模な交流会や情報交換の場など、参加しやすい形から始めていく。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	相談や苦情への対応体制を整え、必要時に迅速かつ適切に対応できるようにしている。	小さな声も拾い上げられるよう、周知と対応の質を高めていく。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	0	SNS等も活用しながら、事業所の活動や連絡事項の発信に努めている。	発信内容をより分かりやすく、役立つ内容にしていく。
訪問先施設への説明等	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	個人情報は鍵付き保管や閲覧範囲の限定などに留意し、適切な管理に努めている。	訪問先施設との情報共有時も、必要最小限の情報提供となるよう確認を継続する。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	子どもや保護者の理解しやすいように配慮し、言葉の選び方や伝える順序、必要に応じた視覚的な補助を意識している。	一人ひとりに合った伝え方の工夫をさらに蓄積していく。
	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4	0	訪問先施設からの相談や困りごとに対し、状況に応じた具体的な助言や支援方法の提案を行っている。	より現場で実践しやすい助言となるよう工夫を重ねる。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4	0	訪問後にはできる限り振り返りの時間を設け、その日の様子や今後の対応について訪問先施設と共有している。	短時間でも要点を共有できるよう、方法を工夫していく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4	0	訪問後には保護者へその日の様子や支援内容、訪問先施設との共有事項を分かりやすく伝えるよう努めている。	家庭との双方向のやり取りがより深まるよう工夫していく。
非常時等の対応	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	訪問記録や共有資料の取扱いに注意し、家庭や訪問先施設との情報共有においても個人情報保護を意識して対応している。	記録や連絡方法の見直しを適宜行い、より安全な情報管理を継続する。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4	0	訪問先施設の困り感や現場の状況を丁寧に聞き取り、無理なく取り入れられる支援方法や関わり方を一緒に考えている。	単発の助言だけでなく、継続的なフォローにつなげていく。
	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	各種マニュアルを整備し、職員間で共有している。必要に応じて家庭への説明や周知も行っている。	訪問支援の特性も踏まえ、訪問先施設での対応も想定した確認や訓練を充実させる。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全計画に基づき、訪問時の安全確認や支援中のリスク把握を行いながら支援を実施している。	訪問先ごとの環境の違いも踏まえた事前確認をさらに丁寧にを行う。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハットがあった際は職員間で共有し、再発防止に向けた対応や支援方法の見直しを行っている。	小さな気づきも報告しやすい体制づくりと事例の蓄積を進める。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	虐待防止に関する研修を実施・受講し、子どもの権利擁護や適切な関わりについて確認している。	日常の支援場面の振り返りを重ね、意識を継続的に高めていく。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	0	身体拘束は行わないことを原則とし、やむを得ない場合の考え方や手続きについては職員間で共通理解を図っている。	身体拘束に至らない支援方法や環境調整の工夫をさらに深めていく。